

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 066	提案機関名 県中央家畜保健衛生所
要望問題名 本県の飼養環境に適応したアニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理技術の構築	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成30年4月、農林水産省から「アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理」が公表され、また、公益社団法人畜産技術協会では平成30年3月、各畜種毎の「アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針（平成21年3月制定）」を改定し、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた家畜の飼養管理の普及が進められている。 今後、畜産物の輸出拡大、2020東京オリパラ大会に向け、さらに重要性が高まることが予想される。 そこで、改めて本県の飼養規模、環境等に適応したアニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理技術についての検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 国産エンリッチドケージによる飼養管理技術の確立（平成30～32年度）			
対応の内容等 アニマルウェルフェアについては、家畜の健康を保つため、快適性に配慮した飼養管理をそれぞれの生産者が意識し実行することが重要であり、関係機関が連携し、推進を図る必要があります。その上で、技術上解決すべき課題があれば、その課題解決のために当センターも取り組む必要があると考えています。 これまでの取り組みとして、養鶏で「既存バタリーケージを改良した家畜福祉ケージによる試験」（平成17～25年度）、養豚で「福祉的要素を取り入れたほ乳・離乳子豚の飼養管理方法の検討」を実施してきました（平成20～24年度）。また今年度からメーカー、大学と協力して、国内の現場に合致した国産エンリッチドケージシステムの開発に取り組んでいます。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 ※EU基準エンリッチドケージとは、床面積1羽750cm ² 以上、高さ45cm以上でケージ内に巣箱、止まり木、砂浴び場、爪とぎ具を有するケージ。			